

## 登山道における能登ヒバ材工作物のクマ被害について (中間報告 2)

宮崎 顕治

石川県白山自然保護センター

### Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) damage to Noto Hiba woodwork on mountain trail (interim report2)

Kenji MIYAZAKI

Hakusan Nature Conservation Center

#### はじめに

ツキノワグマ (*Ursus thibetanus japonicus* ; 以下、クマ) によって、登山道などの山地に設置する標柱・案内板などが齧られ、管理上の問題となることがある。そこで、医王山エリア及び白山周辺エリアでの木製工作物のクマ被害状況について、宮崎 (2021, 2022) で報告したところである。これらの報告で被害はスギ材などを利用した塗装材のみならず、耐久性の高さから近年利用の増えてきた無垢の能登ヒバ材 (以下、ヒバ材) であっても齧られるなどの被害を受けていることを被害状況調査として紹介した。特に2021年は工作物のクマ被害の多い年となり、被害の再現性が多数確認でき、既設工作物で一度被害を受けたものが2回以上齧られる繰返し被害 (以下、繰返し被害) も多く発生したことを報告した。

2022年は、上記エリアでの追加調査及び石川県内の他のエリアで被害状況調査を実施した。また、2020年から実施しているヒバ材被害の再現性を確認するための調査も継続したので併せて報告する。

#### 再現性調査及び調査結果

医王山中心エリア (以下、中心エリア) の6地点でヒバ材の端材 (15cm角程度, L=60~80cm程度) 及び無垢のスギ材 (L=40cm程度, 幅25cm程度, 厚さ10cm程度, 以下スギ材) を調査材料として登山道周辺に、2021年に設置した材料をそのまま残存させた。※位置の詳細は2021年報告を参照されたい。

なお、雪圧等によって傾いた調査材料については直立するよう設置し直した。2022年12月時点で、調査材料に齧られるなどの変化は見られなかった。

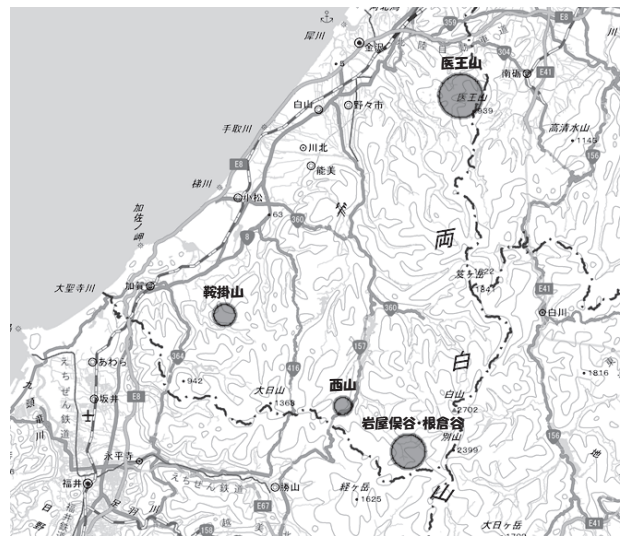


図1 被害状況調査位置図

※掲載地図は全て国土地理院ウェブサイトを使用

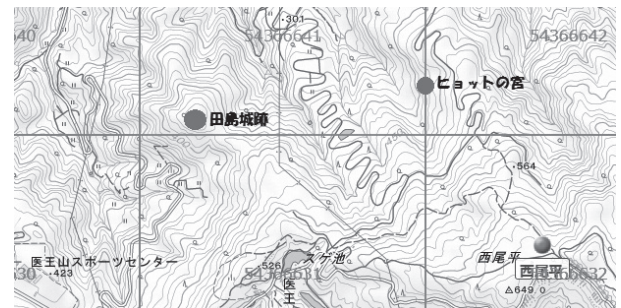


図2 田島城跡位置

### 被害状況調査及び調査結果

2022年6月から11月に、中心エリアにて各ヒバ材工作物の被害を調査し、白兀道や大池平などで道標の新しい被害を、また、西尾平周辺、しがらくび付近及び箱屋谷山付近で道標及びベンチの繰返し被害を確認した。

新しい道標被害は2021年に設置した無垢のヒバ材製で、中心エリア設置10本のうち、8本の被害が確認された。(写真1)

中心エリア以外の医王山エリアでは、戸室山、田島城跡で新鮮な被害を確認した。戸室山の被害は標柱の繰返し再被害で、齧った部分には黒色の毛が残されていた。また、田島城跡は2019年に設置された再生木材を利用した構造物で、噛み砕いた跡がくっ

きりと残されている。(写真2)

なお、同年に設置したヒヨットの宮の同じ構造の説明看板には、盤面や看板の端部(再生木材製)などに爪痕があるものの齧られてはいない。

※再生木材とは、木とプラスチックを混合して成形した木材・プラスチック再生複合材のこと。

白山市の白峰西山でも、2022年に新たに塗装材の標柱被害が発生した。(写真3) 設置から3年間は被害が無かったが、今回、大きな被害となった。

岩屋俣谷探勝路・根倉谷園地でも2021年の追加調査を実施し、岩屋俣谷探勝路で道標及びベンチ計5箇所の2022年発生繰返し被害を確認した。また、2021年に再整備されたヒバ材階段でも新被害を確認した。さらには、岩屋俣谷探勝路の白山展望台(以下、白山展望台)が2022年の秋に再塗装されたので、経過を調査したところ、塗装中の10月から被害が出始め、11月には多数の被害が発生した。このうち7箇所の齧られ部分に黒色の毛が付着していた(写真4, 5)。

小松市と加賀市の境に位置する鞍掛山での調査で



写真1 中心エリア大池平の新被害



写真3 西山での塗装材新被害



写真2 田島城の案内看板被害



写真4 塗装中の10月発生被害





写真5 2010年以降の被害※右端が繰返し部分



写真8 黒色毛付着状況（西山）

は、新鮮な被害は確認できず、頂上付近の案内看板で、かなり年数が経過した齧り跡が3枚確認できた。

### 考 察

再現性調査では、2022年は再現されることが無かった。既設工作物でも年によって被害件数が増減していることから、調査材料でも同様の傾向が出現したと考えられる。

また、被害状況調査では、2021年よりも数が少ないものの、中心エリアや岩屋保谷探勝路で繰返し被害が複数発生しており、新しい構造物に被害が集中している訳ではないことが、2022年でも確認された。

（写真6、7）

しかしながら、2021年に設置したヒバ材標柱の8割に、さらには木製ではない説明看板であっても齧られる被害が発生していることから、新しい構造物に対して強い興味があることが推測される。

### 引用文献

- 宮崎顕治（2021）医王山登山道における能登ヒバ材工作物のクマ被害について（中間報告）. 石川県白山自然保護センター研究報告, 47. 45-46
- 宮崎顕治（2022）登山道における能登ヒバ材工作物のクマ被害について（中間報告）. 石川県白山自然保護センター研究報告, 48. 43-4



写真6 2021年8月時点の被害（西尾平付近）



写真7 2022年10月時点の被害（同左）

※写真6以降、2回目の繰返し被害

